

第3回 IPネットワーク管理・人材研究会 プレゼンテーション資料

IP化するネットワークの システム管理・人材のあり方について

2008年6月10日

情報通信ネットワーク産業協会

専務理事 資宗 克行

1. CIAJについて
2. 環境変化と課題認識
3. 今後の技術者に求められる要件に関して
4. IP化するネットワークのシステム管理・人材のあり方への考察

1. CIAJについて

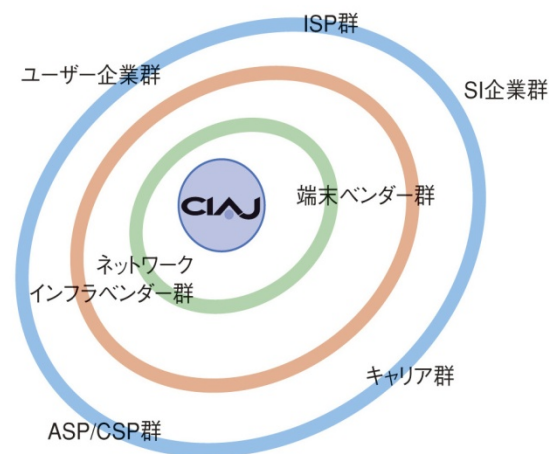
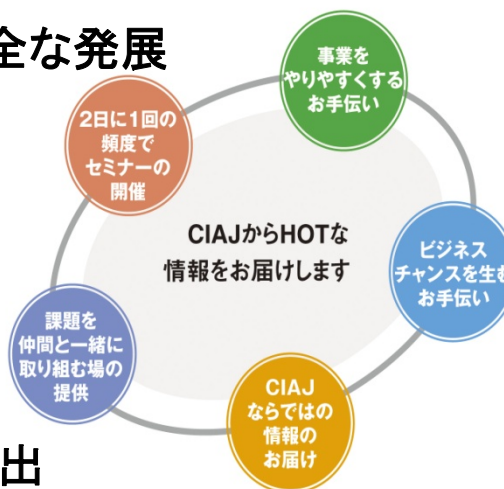
- ◆ **名称**: 情報通信ネットワーク産業協会 (旧・通信機械工業会)
Communications and **I**nformation network **A**ssociation of **J**apan
- ◆ **概要**: 1948年 端末ベンダー/ネットワークインフラベンダーを主体に設立
 2002年 SI企業、ユーザー企業、ISP/ASP/CSP企業を会員に加え、
 団体名称を「情報通信ネットワーク産業協会」に改称し、現在に至る。
- ◆ **会員数**: 309社・団体 (2008年5月15日現在)

◆ **設立目的**:

- ・情報通信ネットワーク産業の健全な発展
- ・情報利用の拡大・高度化に寄与
 することで豊かな国民生活の
 実現と国際社会への貢献

◆ **主な活動**:

- ・システム・サービスの普及
 促進、高度利用醸成
- ・事業環境の改善・事業機会の創出
- ・社会・経済・文化の情報利用の拡大・高度化 他



SI: System Integration

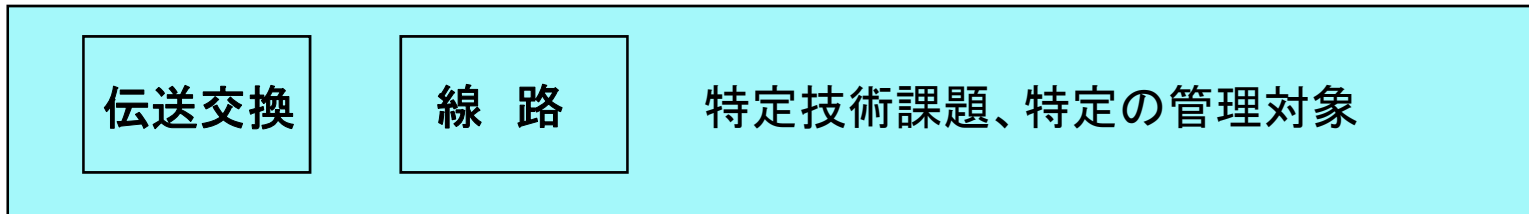
ISP: Internet Services Provider

ASP: Application Service Provider

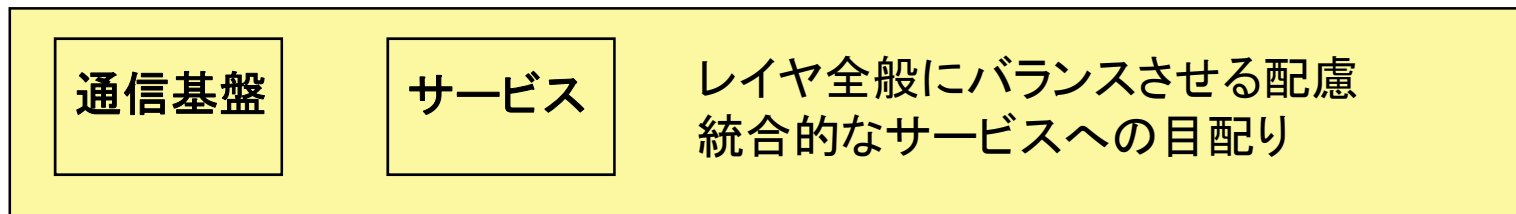
CSP: Contents Service Provider 3

2. 環境変化への課題認識

- 「電話サービス」ベースの設計・管理手法から、ネットワークのIP化進展に伴って生じた諸状況と課題



End to Endサービス確保への対応



3. 今後の技術者に求められる要件に関して

■ 新たな技術やリスク管理に対応した技術者に求められる要件

- ① 通信基盤を構成する物理レイヤから上位レイヤを含め「End to Endサービス」確保の視点で、総合的な状況判断が出来ること
- ② アウトソーシングされた業務を総合的に管理出来ること
- ③ 広域にわたる事故や障害への対応が出来ること

検討可能性の一例



■ 求められる要件を「資格試験」で確認するには、IPネットワークなど新しい分野への知識に加えて、多様な事象に対する適合性への経験を加味することも望ましいと思われる。

⇔ 学識試験の拡充と「実務経験を問うこと」を通して、全体のバランスをとることが大切！

■ また、事業環境の多様化に伴い、事業規模やサービス形態の相違によって、求められる経験や知識の範囲に違いが出ており、これに対応する資格制度も場合によって階層化させる事も含めて検討される必要もあり得る。

■ 実務経験重視の意義

■ 学識試験の限界を補う

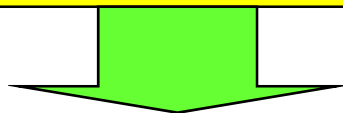
逐次的な学識試験科目の多角化・強化推進は、限界がある。

- 受験者の多くは、実務経験を活かして合格している。
- 資格取得は、いずれ実務に就くためのステップである。
- 「実務経験を問う」と、学識試験のバランスを取ることで、
 - ① 資格試験の内容構成が柔軟になる。
 - ② ネットワークの進化に伴い、多様な事象に対応するには、学識経験だけでは対応できなくなり、実務経験からくるスキルが求められる。

4. IP化するネットワークのシステム管理・人材のあり方への考察

—資格制度の在り方と、選任された技術者の在るべき姿の関係—

基礎となる資格制度と整合性の高い形で、技術者の選任や配置が出来ることが、効率的かつ合理的である。



安全・信頼性確保と通信の基本、新技術への対応を併せ持つ人材を育成し、資格付けて行く

今後の方向性	資格制度設計の見直し⇒具体的にどういう進め方が 良いか広く論議して、参りたい。
--------	--

	求められる資質と資格制度の整合性を高め、市場や技術の変化を適切に反映して、学識科目と実務経験との全体バランスが取れた資格制度とすることが重要
--	--